

梅雨入りを前に 国有林防災ボランティア 活動内容を確認

～ 地域住民の安全・安心に 活動内容・連絡体制などを確認 ～

6月5日、大分森林管理署会議室において、国有林防災ボランティア協定者の(一社)熊本林業土木協会員の、清川産業(株)江藤 代表取締役、(株)菅厚組 田中 電力工事課長に出席いただき、大分森林管理署から、坂本署長をはじめ、治山事業、林道事業の各担当者7名が出席し、総勢9名により、自然災害に備えた国有林防災ボランティア活動の内容を確認しました。

はじめに、坂本大分森林管理署長から「梅雨期の集中豪雨等による被害発生時に、協定の目的にある地域の安全の確保・向上を図るため、皆様方には安全に活動していただく必要があります。限られた時間ではありますが、活動にあたっての留意事項などについて打ち合わせをお願いします。」と挨拶がありました。

つづいて、竹原総括治山技術官から、本日の打ち合わせの趣旨と自然災害が発生した場合の、国有林の位置関係や人家等へ被害の有無、応急対策など、迅速な被害状況の把握が重要であることを説明しました。

打ち合わせでは、梅雨入りを目前にして、自然災害が発生した場合の連絡体制や国有林防災ボランティア活動範囲の確認、活動の班編成、安全対策について確認しました。

本日の活動内容の確認(備え)が、非常時に迅速かつ機動的な活動につながるとともに、当署においても管内の山地災害危険地区を優先的に巡視を行い、地域住民の安全・安心できるよう取り組むことにしています。



坂本 大分森林管理署長(中央) 挨拶



協定者間で意見交換



協定者間で意見交換